

夢洲・咲洲地区活性化に向けた大阪市の取り組み状況

平成22年5月

夢洲・咲洲地区のまちづくりの実現に向けた主な取り組み状況について

平成 21 年度は、ペDESTリアンデッキの整備など約 11 億円を、また平成 22 年度は、夢洲コンテナ埠頭整備など約 57 億円を予算計上しており、以下で 2 月以降の取り組み状況を紹介する。

(1) 交通アクセス改善・地区内の環境改善の推進

咲洲トンネル利用料金の無料化

無料化・社会実験に向け、大型車を中心とする臨海部での交通流動の現状把握

物流関連の大型車両と分離のため、ペDESTリアンデッキ整備を行う。

東ルートのコスモ中央線横断部分および平面歩道を整備(22 年 5 月末完成予定)

東ルート道路横断部分の整備推進、民間地権者との協議促進(東・西ルート)

咲洲地区における大型車両の渋滞対策として、コンテナ航路を咲洲から夢洲に移転することで車両総数を低減させた。また、咲洲地区で車両待機場の設置に続き、荷役効率を向上させることで、道路上の待機車両数を低減させる。

咲洲地区西側(R 岸壁、C6,7 岸壁)から夢洲地区へコンテナ航路の移転(22 年 3 月末完了)

咲洲東のコンテナ埠頭や国際フェリーターミナル背後地における車両待機場の整備(22 年 3 月末完了)

(2) 夢洲・咲洲地区への企業誘致、産業振興策の推進

夢洲・咲洲地区を「戦略拠点地区」と位置づけ、企業誘致や産業振興策を総合的に展開する。

府・市・経済界による「企業等誘致協働チーム」による企業ニーズアンケートの実施(22 年 2~3 月)など
企業等の立地促進、先端産業誘致に向けた PR 活動・プロモーション活動など

国に対して「成長戦略拠点特区」をめざした構造改革特区提案(22 年 3 月)

税制上の優遇措置等を総合的に講ずる経済特区の実現に向けた検討・制度設計

コンテナ港湾の国際競争力強化に向けた取り組みを進める。

阪神港として国際コンテナ戦略港湾選定に向けた取り組み(6 月選定予定)

(3) 防災対策の実施・環境施策の展開

咲洲地区の防災機能を向上させる。

咲洲トンネルの耐震補強(22 年 3 月末完了)。なお、南港大橋など大規模橋梁については既に耐震対策が実施されており、内陸部から咲洲地区に渡るインフラの耐震化が完了

災害時の応急対策活動の円滑化の観点から、南港大橋附近において津波の浸水防止対策のための設計

臨海部の特性を活かした環境施策を展開する。

夢洲 1 区への大規模太陽光発電[メガソーラー]設置(5 月中に事業企画提案の登録受付)

は H21 年度実施、 は H22 年度予定